

【目的】基本的視作業として「文字や文章を読む」作業を取り上げ、文書の読み易さによる明視性評価と明視三要素（背景輝度、文字寸法、文字と背景の対比）および個人の視力の関係について把握する。また文書の読み易さと読む意欲等の作業心理との関係について把握し、文書の明視性に関する物理条件と心理評価の関係図を作成する。

【方法】明朝体で天声人語を記載した実験用文書視標（背景反射率0.89）を用いて、文書の読み易さ評価と明視三要素および個人の視力の関係を把握する。実験変数は視標面輝度（ $0.1\sim 2500\text{cd/m}^2$ ）、文字寸法（ $7.5\sim 85$ 分）、対比（ $0.52\sim 0.93$ ）および個人の最大視力である。様々な視力について検討するため被験者は適正な矯正を行っている若齢者と高齢者から選定した。また明視環境設計の資料を作成するため、文書面の明るさ感や読む意欲、文書の誘目性等の作業心理についても検討した。

【結果】文書の読み易さ評価は明視三要素および個人の視力とよく対応しており、等しい読み易さ評価が得られる時の明視三要素と視力の間には、単純な対数関数式が成立し、それは既往の研究における閾値の結果と等しい。読み易さ評価が物理条件の増加に伴って向上するのに対して、文書面の明るさ感には適正範囲が存在している。この2つの評価に関して、適切な明視環境設計を行う資料として環境条件と個人の視力の組合せから読み易さ・明るさ感の程度を把握する評価図を作成した。さらに文書の読み易さ評価は読む意欲および文書の誘目性を反映する尺度であることを示し、文書の物理条件に対する作業心理評価構造を図示した。